

モデル実験による集合内の服装の場違い感に及ぼす背景の影響

○内田直子 小林茂雄 長倉康彦

(共立女大)

《目的》昨年度の本大会では、人々の集合において、服装が場の雰囲気到场違いかどうかを検討するため、人形のモデル実験にて、空間構成要因の影響を取り除き、無背景の集合状態で行った。今回は、この集合に背景が付加された場合では、その場違い感がどのように変化するかを様々な場のシミュレーション実験を通して検討した。

《方法》実験試料として、4つの空間の写真と人形の写真をパーソナルコンピュータに取り込み、各空間ごとに、服装比(35 : 1)(27 : 9)(18 : 18)(9 : 27)(1 : 35)とした二種類の服装の人形をランダム集合状態にして、合成写真を作成した。空間(4)×服装組み合わせ(4)×各組の服装(2)×服装比(5)の合計160回、1回の休憩を含めスライドを提示し、5段階評価法にて評価させた。実験は1998年4月に行い、被験者は女子大学生82名で、有効回答数73名である。

《結果》空間が付加された場合でも、集合内の相手側の服装が減少すると、場違い感も順次急激に減少する。ただし、無背景の集合の場違い感の結果と比較すると、空間が付加することにより場違い感が高くなる服装と、逆に場違い感が低くなる服装とがみられ、特に着物は場違い感が全般に高くなる傾向が示された。また、同一服装でも、服装の組み合わせによって場違い感は変わり、服装組み合わせの要因も影響している。服装の場違い感、服装比の他に、背景となる空間の種類、服装の種類や集合での服装の組み合わせなどの要因に影響されて、決定していることが明かとなった。